

山
23.1.12

冬の感染症猛威

拡大防止に手洗いと消毒を

冬季に多いノロウイルスやインフルエンザウイルスによる感染症が、猛威を振るっている。

昨冬は、新型インフルエンザの出現で、社会全体が感染症への警戒感を高めていた。このため、新型イン

フルエンザを除き、ノロウイルスを含むほとんどの感染症で患者数が例年を大きく下回った。

ところが、今冬は、その警戒感が薄れたスキを病原体に突かれた形になった。流行の拡大を防ぐため、消毒や手洗いといった感染症対策の基本を、改めて徹底する必

要がある。

ノロウイルスを主な原因とする感染性胃腸炎については、患者の急増を受け、「警報」を発令する自治体が相次いでいる。

飲食店を利用した多数の客が下痢や嘔吐の症状を訴えたり、保育園でも園児たちが、同様の症状に陥ったりする例が目立つ。中には幼児が死亡した例もある。

食を通じた感染例が多い。二枚貝の生食や、調理する際の食品汚染などが原因となる。

患者の吐しゃ物の処理や消毒が十分でない場合、残ったウイルスが乾燥して舞い、それを吸い込んで感染することもある。

問題は、このウイルスに対する予防ワクチンがなく、発症しても治療薬がないことだ。水分を十分に取り、回復を待つしかない。

しかも、このウイルスは、一般的なアルコール消毒では死滅させることができない。このため患者の吐しゃ物を処理する際には、きれいに洗い流すか、塩素系の消毒

剤を使う必要がある。

公的な施設の入り口などに置かれているアルコール系の消毒剤への過信は禁物だ。

インフルエンザも、厚生労働省が「全国的な流行開始」を宣言して注意を呼びかけているが、拡大に歯止めがかからない。

当初は、A香港型という旧来のウイルスが主流だった。だが、最近、昨春まで流行していた新型インフルエンザが感染者の6割に達している。

新型は感染力が強い。抗ウイルス薬の種類が増え、治療の幅は広がってきたものの、重症化することもある。やはり手洗いやマスク着用などによる予防が一番だ。

冬の寒さはこれからが本番である。この寒さと乾燥で、ウイルスなどの病原体は生き延びやすくなる。一方で人間は体力、免疫力が落ちる。

感染症に対する国民の警戒感を高めるため、政府や自治体は、きめ細かく情報提供すべきだ。